

●どうしても手が離せないとき、スマホやYouTubeに頼ってしまいます。「うちの子集中力があるのかもしれない?ずっと見ているわ」と思う人もいらっしゃると思います。でも、ゲームやYouTubeなどは、興味のある内容を短時間で次々と提供してくれるので子どもは長時間見ているのですが、受動的に刺激を受けているだけなので、集中力は養われません。むしろ、依存度は増すので「枠組み」(お子さんとの簡単な約束事)をもって利用するようにしました。

●小2になった現在の娘に対しての枠組みは、①土日のみ、②1回60分程度、③宿題は終わらせていることです。(最初に枠組みを決めていなか

ったので、ここに落ち着くまで、何回も親子げんかをしました(-;-))

お子さんの年齢にもよりますが、どうして枠組みが必要かということをも説明して、一緒に考えてみてください。

- どんどん進化していくゲーム・SNSの世界は、どのような影響を与えるのかは、明らかではありません。ただ、前頭葉は乳幼児期の遊びや自然体験を通して多様な刺激を受けることで活性化されるといわれています。乳幼児期にたくさん遊ぶことで情緒が安定し、自己肯定感の高い大人になるという研究結果も報告されています。

●最初は、「もうちょっと見たい!」となると思いますが、思い切って切り上げてみましょう。その時は泣いても約束は必ず守るよう、諭してください。泣くから、根負けして約束を守らないでよいとしてしまうと、次回以降、余計に泣き方がエスカレートしてしまいます。

●若い年齢のお子さんは、「2つ見たらおしまいね」や「〇〇が終わったらおしまいしようね」など、終わりの目安はあらかじめ伝え、大人も約束したことは守るようにしましょう。

●大人も子どもも未知の世界。枠組みを作って、うまく付き合っていきたいですね。



Enstagram エンスタグラム



NO. 54 2023年 3月1日発行

発行:社会福祉法人石井記念愛染園 隣保事業部 広報委員会 ☎06-6649-6182 [大国保育園] http://www.aizenen.or.jp/ aizen.kouhou@gmail.com 西野 金本 能登 中津 中島

幼少期における 生きるための教育 性教育・生教育 シリーズ1



愛染園の保育園では、愛染橋病院の助産師さんをお招きして「幼少期における生きるための教育(性教育・生教育)を行なっています。子どもと「性について話す」のは、刺激的でまだ早いと感じるかもしれませんが「子どもたちの体や健康」「安全のこと」「自分らしくあることを身につける」ための学び【性(生)教育】について保護者のみなさん、一緒に考えてみませんか



◀左から 大木萌愛さん 大村彩花さん 上野 舞さん 永山琴美さん 難波美緒さん 吉田涼子さん

Q. 愛染橋病院では、なぜ「性教育のプログラム」を助産師チームで始められたのですか

助産師 病院で妊産婦と関わり「正しい性知識」を身につける必要性を感じることがありました。私は、10代の若年妊娠と関わる機会が多く、幼少期からの性教育の重要性を感じました。

Q. どうしてそう思ったのですか

性の知識の低さによる若年妊娠の増加がきっかけです。また、幼少期からさまざまな逆境(性的虐待やDV)により『自分は愛されていない』と感じて自己否定する妊婦と関わるなかで何かできないかと考えたからです。

Q. 助産師さんはとても大切な役割を担われていますね。さて、今日は、子育て中の保護者が感じている性教育についての悩みについて教えてください。

プライベートゾーン

自分だけが見たり触ったりしていい大切な場所

プライベートゾーンは、他の人が勝手に見たり触ったりしてはいけないところ。お医者さんに体を診てもらったり、手伝ってもらったりするとき以外で、もし勝手に触ろうとしたり、見ようとする人がいたら、「勝手にさわらないで、イヤだよ」と言って逃げることや、信頼できる大人に話すことが大切です。



Q. 子どもが「性的な言葉(おっぱい、お尻、ちんちんなど)」を発しているときや、触ろうとしているときにどう関わってあげるといいですか?

幼児期になると「自分の体に興味・関心を持つことは自然なこと」です。ただし触るときは人の前ではしないこと・清潔な手でやさしく触ることを伝

えてあげることが大切です。また、プライベートゾーンについて伝える機会にもなります。プライベートゾーンについての理解は子どもの「性被害予防」にもつながります。もし体を触られたり、見られたりして嫌な思いをしたと子どもが言ってきたときには、「よく話してくれたね。あなたは悪くないよ。悪いのは勝手にそうしたんだよ」と伝えましょう。

保育士の感想

「性教育って人権教育なんだ!」

性教育を学んで、私たち保育士も、子どもを抱っこするときや、一緒に行動を進めるときに子どもの体を勝手に触ったりするのはなく、子どもの声(意見)をしっかり聴くことが大切だと改めて感じました。大人たちが子どもに丁寧に関わることで、子ども自身が「自分は大事な存在だ」という実感が湧いてくるのではないかと感じました。

予告 次回は助産師さんと語る「いのち」と「からだ」のお話です。